

# 妻ヶ丘地区地域福祉活動計画

## 「笑顔で声かけ未来へつなぐ妻ヶ丘」



写真：妻ヶ丘地区の笑顔を集めました

令和8年3月

《妻ヶ丘地区地域福祉活動計画策定委員会の皆さん》



～ 未来に向かって笑顔と絆が生まれました～

この計画は、妻ヶ丘地区住民、施設、学校等が連携し、福祉のまちづくりや居場所づくり、相談できる体制づくりを推進していくために策定いたしました。計5回の策定委員会では、真剣な議論のもと、幅広い世代にとって暮らしやすい地域となるよう意見を反映させました。その成果として、一体感を持って「笑顔で声かけ 未来へつなぐ妻ヶ丘」というスローガンを掲げることができました。半年間、ともに計画を作り上げた絆を感じる瞬間でした。

誰もが安心して暮らせる5年後を見据え、地域の未来を担う若い世代の活躍にも注目しながら、ともに地域福祉を推進していきたいと考えております。みんなで作り上げたこの計画を原動力とし、より一層の精進を重ねてまいります。



妻ヶ丘地区地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 松尾 伊津子

## 《策定委員会の進め方》

### 第1回

過去5年間の地域活動で感じた良い変化のエピソードを出し合い、共感したものに投票。ひとつのエピソードを深掘りし、大事にしてきた価値観を考えました。



### 第2回

1回目で出し合った全員のエピソードを深掘りし、日頃大切に思っている価値や意義のあるキーワードを出し合いました。



### 第3回

助言者として武蔵野大学 清水順子先生に来ていただきました。大事にしたい価値観をもとに作った行動指針と照らし合わせながら、これからの取り組んでいきたいことについて話し合いました。



### 第4回

これからの取り組んでいきたいことについて、具体的にどのように実現するか、「組織体制」「財源」「事務局機能」「拠点」の視点から考えました。



### 第5回

できあがった計画を全員で見直し、これまで出し合った大事にしたい価値観（キーワード）から、スローガンを決定しました。



## 地区社協のあゆみ①（設立年月日、活動の経緯など）

### 【地区社協のあゆみ】

平成4年	妻ヶ丘地区福祉推進委員会として設立
平成11年	広報誌「えがお」第1号発行
平成19年	妻ヶ丘地区社会福祉協議会に改称
平成22年	子育てサロン“にじ”開始
令和3年	一万城東部自治公民館にサテライト相談室を開設
令和7年	福祉協力員制度開始

### 【受賞歴】

令和2年	都城市社会福祉協議会会長表彰
令和3年	都城市長表彰
令和4年	宮崎県社会福祉協議会会長表彰
令和7年	みやざき社会貢活動献表彰

### 【主な事業】

#### ○ふくしなんでも相談

毎週水曜日に妻ヶ丘地区公民館にて開設。地域住民の暮らしの相談に応じている。令和3年度から、一万城東部自治公民館にサテライト相談室を開設。地区公民館まで出向くことができない方等、幅広く相談を受け付ける体制を作っている。

#### ○福祉協力員制度

民生委員の欠員が課題となっていることを背景に、令和7年度より活動開始。ふくしなんでも相談の相談員として登録し、民生委員欠員地区を対象に、自治公民館長と連携しながらアウトリーチ相談を実施している。

#### ○まちづくり協議会との協働事業

まちづくり協議会と協働し、すべての地域住民を対象とした「合同研修会」や「福祉総合研修会」を実施している。地域福祉や暮らしに役立つ情報、妻ヶ丘地区内の福祉に関する啓発や情報発信を行っている。

#### ○広報誌「えがお」

平成11年度より発行を続けており、令和7年12月で106号を迎えた。地区社会福祉協議会で実施する事業や子育てサロンの情報、自治公民館の活動、地域活動で活躍する地域住民等を紹介している。

### 【体制】

会長1名 副会長2名 事務局長1名

自治公民館長、民生委員、高齢者クラブ、食生活改善推進員、子育てサロン、生活支援コーディネーター、福祉協力員、地区公民館長、地域包括支援センター

## 地区社協のあゆみ②

### トピック① 子育てサロン “にじ”

平成22年度、民生委員児童委員協議会が主体となって活動を始め、現在は地区社会福祉協議会にて実施している。

“親子で楽しめる”“親同士の情報交換”など、子育て世代の孤立を防ぐためのサロンを企画している。



### トピック② 地域・福祉施設意見交換会



平成28年度より、妻ヶ丘地区内の福祉施設・事業所と地区社会福祉協議会にて意見交換会を実施している。

令和7年度は、地区内の事例をもとに、それぞれの立場でできる支え合いや孤立防止について意見交換を行った。

### トピック③ 親子で楽しくクッキング

食生活改善推進協議会と協働し、小中学生とその親を対象とした料理教室を開催。郷土料理の伝承、子どもの自活する力をはぐくむことが目的であり、親子を対象とすることで、子ども、子育て世代と多世代に地域活動へ参加してもらおうきっかけを作っている。



### トピック④ ふくしのつどい



令和7年12月、自宅で介護している方を対象とした「在宅介護者の集い」を、すべての住民を対象とした「ふくしのつどい」にリニューアルした。リフレッシュや介護予防、介護に関する講習などを企画している。

### トピック⑤ 暮らしを豊かにする講習

特技を持つ学生を講師に招き、ミニ菜園やモイストポプリなど、暮らしに癒しを添えるクラフト作成、園芸等を通じた住民同士の交流を図っている。多世代の交流や若い力を地域に活かす取り組みとなっている。



# 創造の道すじ ～笑顔と安心を生み出す「好循環（サイクル）」～

第5次地域福祉活動計画を策定するにあたり、全15地区で現状の「課題・願望」と未来への「想い」をシートに書き出しました。そこには現場のリアルな熱い想いが詰まっています。

## 1. 地区の全体スローガン：これから5年間の目指す地区全体の指針とは？

⇒第5回策定委員会（最終回）では、地区全体のスローガンを決めました。

## 2. 行動指針：地域での活動や取り組みを導く大事な価値観とは？

⇒第1回～2回策定委員会では、「最もすごいチェンジ」を出し合いました



**妻ヶ丘Bグループ**

**交流拠点**  
交流拠点が必要です  
交流拠点の利用  
交流  
交流

**たまり場**  
たまり場エリア  
遊び場  
学びの場

**ボランティア活動**  
ボランティア活動  
ボランティア活動  
ボランティア活動を再開したい

**つどい**

**エピソード**  
交流拠点！  
立派な公民館ができました！

**多機能化**  
つまっぽカフェ 食べ物  
読み聞かせ  
クーリングシェルター  
土日に空ける  
どこかの団体が借りてくれれば…  
本を読む 小さな図書室

**福祉的支援**  
子ども・障がい者・高齢者、全ての世代に活用できる場になると良い  
他の地区ならいけるよ  
家から出られない老人  
学校にいけない子  
各世代の子ども食堂みたいな活動もできるとよい  
**新たな地区社協の形**  
人の支援  
モデル地区  
地区社協事務局

◆第5次都城市地域福祉活動計画「妻ヶ丘地区地域福祉活動計画シート」（抜粋）

全体のスローガン	行動指針	現状
<p><b>笑顔で声かけ</b></p> <p><b>未来へつなぐ</b></p> <p><b>妻ヶ丘</b></p>	<p>相談できる人、話せる人と出会える場をつくり、住民のコミュニケーションを深めよう</p>	<p><u>在宅介護者のつどい</u> 介護経験のある住民、関係機関を対象とした講習会および集いの場の提供（年1回）</p>

これまでの活動を整理し、未来へ向かってどう進んでいくか、「その道すじ（ロジック）」を解説します。

### 3. 実現に向けて必要なこと：その価値観を大事に、実現に向けて必要なことは？

⇒第3回～4回策定委員会では、「これから取り組むこと」「何が整えば実現できるか」を話し合いました。

#### 【入り口（楽しさ・共感）：人が集まる】

多世代・笑顔・わくわく・サロン・顔見知りを増やす・参加へのハードルを下げる

↓ ここから信頼が生まれる ↓

#### 【深まり（信頼・支え合い）：相談できる】

ちょっとした困りごと・キャッチ・見守り・楽しい場でできた関係性から

↓ これが安心をつくる ↓

#### 【土 台（持続可能な仕組み）：無理なく続ける】

拠点・IT・自主財源

新「地区社協」創造への道すじ

#### これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)

##### 【活動の見直し】

・目的やネーミングを見直し、介護者もそうでない人も参加できるようにする

##### 【福祉施設との協働】

・福祉施設の活用（会場、専門職講師）

#### 実現するための必要なこと

##### ①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点

##### 【組織体制】

・有資格の地域住民を講師に招く

##### 【財源】

・地区社協活動推進助成金の活用

##### 【事務局機能】

・介護予防や介護者のリフレッシュなどにつながる内容を企画し、対象者を広げ、地域の居場所やほっとできるつどいを目指す

##### 【拠点】

・地区公民館や福祉施設の活用

※これ以降を参照

## 第5次都城市地域福祉計画の体系図

第5次都城市地域福祉活動計画 全体スローガン

笑顔でつながり 未来を綾なす 新しい地域

### 新「地区社協」創造

#### 3つの行動原則

1. 「ゴール」を目指す姿 笑顔が集まる、誰もが主役になれる居場所をつくる
2. 「エンジン」推進力 多様な力とつながり、広がる共感で地域を動かす
3. 「ベース基盤」 小さな「困った」を見逃さず、無理なく支える仕組みをつくる

#### 実現のための4つの創造

1. 組織体制：「固定化」から「チーム戦」へ
2. 財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ
3. 事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ
4. 拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ

### 15地区地域福祉活動計画

姫 城／「優気」をもってふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち ～姫 LOVE 増殖中！～

妻ヶ丘／笑顔で声かけ 未来へつなぐ 妻ヶ丘

小松原／世代をこえて 笑顔でつながる 小松原

祝 吉／未来につなぐ笑顔のまち祝吉 ～ありがとうをいっぱい咲かせよう～

五十市／誰もが まんなか 活気あふれる いそいち

横 市／みんながつながる横一愛

沖 水／ささえ愛 笑顔でつながる 沖水の和

志和池／みんなの笑顔でつながる未来へ ほっぶ すてっぶ 志和（しゅわ）っ池（ち）！

庄 内／地域を愛し、お互いさまの心でみんなが支え合うまち・庄内

西 岳／西岳1チーム お互いさまで、ほっこりにっこり～ぼちぼちやってみろかい～

中 郷／みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

山之口／すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高 城／未来へつながる ほっこり思いやりのまち高城

山 田／ふれあい、ささえあい、つながりあう 福祉もまちづくり

高 崎／支えあい未来につながる★きりり★高崎

### 都城市社協経営基盤強化計画

1. 組織・人材

2. 財政

3. 事業

4. 拠点

## MSCのエピソード

○活動を通じて地域でおこった変化「良かったこと」「うれしかったこと」

※Most Significant Change (MSC) ≡ 「最もすごいチェンジ」



交流拠点！  
立派な公民館ができました。



地域住民のつながりを強める機会として、馬頭観音祭りを開催することができました。



地域行事に中学生が参加し、いきいきと活動している姿に感動しています。



コロナでできなかった施設の祭りを3年ぶりに実施し、地域の協力や施設内外の出し物で、笑顔、涙、様々な反応がありました。



包括と地区社協、民児協とのネットワークが機能し、地域から相談を受けることが増えました。

ほかにもこんな素敵なエピソードがありました！

- 朝の見守り運動を続けていて、卒業式の日子どもたちがお礼のあいさつに来てくれました。「健やかな心身の育成」が実践されていると感じました。
- 友愛ネットを立ち上げ、一人暮らしの見守りができました。
- 施設利用者と一緒にこけない体操に参加し、交流が生まれました。
- ボランティア活動に力を入れ、地域と学校がつながっていると実感しています。
- 「毎日見かけていた高齢者を見かけなくなった」と、名前も知らない住民を心配した相談が寄せられるようになりました。
- これまでできなかった祭りを実施し、子どもたちの喜ぶ顔が見られました。

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>住民同士のつながりで、相談できる人がいる安心感を大切にしよう</p>	<p>① <u>ふくしなんでも相談</u> 地区公民館（週1回） 東部サテライト（月1回）</p> <p>② <u>福祉協力員制度</u> 民生委員不在地区に対するアウトリーチ相談（随時）</p>	<p>【なんでも相談の周知】 手に取りやすい広報作成</p> <p>【出張相談】 ・各自治公民館へ移動式出張相談実施 ・相談室以外での相談方法（SNS含む）</p> <p>【相談しやすい環境づくり】 ・秘密が守られ、誰でも相談できる相談室（匿名、他地区の住民） ・地域活動やボランティア活動などの情報提供を行い、相談がなくても集える場所にする</p> <p>【地区社協事務局の在り方】 ・新しい地区社協の形を模索し、モデル地区となるような事務局運営を目指す</p> <p>【自公連・民児協・行政との連携強化】 ・自治公民館長と一緒に訪問活動を行う ・自公連、民児協、地区社協が同じ認識を持つ</p> <p>【福祉協力員の役割整理】 ・福祉協力員の役割を整理・浸透させる</p> <p>【福祉協力員の発展】 ・将来的には各公民館に配置する</p>
<p>地域のつながりと専門機関とのつながりを広げ、協力できる関係をつくらう</p>	<p>③ <u>福祉施設との意見交換会</u> 圏域内の福祉施設との意見交換・事例検討（年1回）</p>	<p>【福祉施設の活用】 ・地区社協の悩みや好事例について福祉施設と意見交換</p> <p>【専門機関との連携】 ・福祉施設</p>
<p>相談できる人、話せる人と出会える場をつくり、住民のコミュニケーションを深めよう</p>	<p>④ <u>在宅介護者のつどい</u> 介護経験のある住民、関係機関を対象とした講習会および集いの場の提供（年1回）</p>	<p>【活動の見直し】 ・目的やネーミングを見直し、介護者もそうでない人も参加できるようにする</p> <p>【福祉施設との協働】 ・福祉施設の活用（会場、専門職講師）</p>

# 未来へつなぐ 妻ヶ丘」

<p style="text-align: center;"><b>実現するための必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館未加入者への周知強化のため、広報配布先を拡大</li> <li>・館報掲載のため、自公連・地区公民館と連携する</li> <li>・広報誌作成に、大学生、高校生、作成を得意とする住民に協力を依頼する</li> <li>・当面は小学校区ごとに配置する（福祉協力員）</li> <li>・将来的に全地区配置を目指し、自治公民館長、民生委員との協力体制を構築する（福祉協力員）</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金の活用（ふくしなんでも相談員報酬）</li> <li>・妻ヶ丘地区内企業からの広告収入の増収を目指す</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職による相談日を設ける</li> <li>・SNS相談の試行</li> <li>・サロンや居場所としての機能を強化し、住民の立ち寄れる場所にする</li> <li>・広報誌・館報による周知強化を図る（出張相談の年間計画、相談事例の提示）</li> <li>・地区社協、民児協、自公連の情報共有や共通認識を持つ機会をつくる（福祉協力員）</li> <li>・福祉協力員の役割を明文化する</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張相談を実施する（自治公民館巡回、こけない体操）</li> <li>・アウトリーチ相談による「ちょっとした困りごと」の受け止め</li> <li>・拠点を持たない「ふくしなんでも相談」としてアウトリーチする（福祉協力員）</li> </ul>	<p><b>①組織体制:「固定化」から「チーム戦」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人脈を活かし、幅広い人に声掛けしながら年齢層の厚い組織体制にする</li> <li>・地区社協担当者の増員</li> <li>・学校関係者の役員・理事参入</li> <li>・関係機関とつながりのある地域</li> <li>・専用事務室の確保</li> <li>・有給職員の雇用</li> <li>・法人格の取得（NPO法人、一般社団法人等）</li> <li>・策定委員会のメンバーを構成メンバーにする</li> <li>・有償ボランティアの拡大</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉施設職員との連携</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉施設が地域の行事等を受け入れられるよう調整する</li> <li>・地区社協役員のスキルアップを目的とした、福祉施設や技術に関する研修・勉強会を実施する</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設を巡回して意見交換会を実施する</li> <li>・福祉施設の空き時間を活用して意見交換会を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業の参画</li> <li>・動きやすいポストづくり</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有資格の地域住民を講師に招く</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協活動推進助成金の活用</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防や介護者のリフレッシュなどにつながる内容を企画し、対象者を広げ、地域の居場所やほっとできるつどいを目指す</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館や福祉施設の活用</li> </ul>	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>交流拠点で、リフレッシュや元気になる機会を増やそう</p>	<p>⑤ <u>暮らしを豊かにする講習会</u> 園芸やクラフト作製などを通じた体験型の講習会（年1回）</p>	<p><b>【学生との協働】</b> ・高校生や南九州大学生と一緒に実施し、多世代交流や新たなつながりをつくる場にする</p> <p><b>【活動の見直し】</b> ・開催日、対象者、目的を見直し、多くの住民が参加できるようにする</p> <p><b>【交流の場】</b> ・多世代交流 ・新たなつながりづくりの場</p>
<p>多世代交流や地域ぐるみの子育てでこどもの声や笑顔があふれる地域にしよう</p>	<p>⑥ <u>親子で楽しくクッキング</u> 調理活動を通じた地域住民の交流と郷土料理の伝承（年1回）</p> <p>⑦ <u>子育てサロン“にじ”</u> 未就学児世帯を対象とした交流、居場所の支援（月1回）</p>	<p><b>【こどもの自立につながる活動へ】</b> ・子どもたちが自宅で作れるレシピの提案</p> <p><b>【多様な背景を持つ住民を受け入れる】</b> ・障がいの有無、国籍に関わらず参加できる場に ・不登校や引きこもり当事者など、課題を抱えた世帯の居場所づくり</p> <p><b>【親・親子・親同士を軸に】</b> ・親のリフレッシュ、親同士の情報交換、親子で楽しめるといった、“親への支援”を軸にした活動を実施する</p>
<p>顔なじみの関係や気づき合いができる集まりの場をつくり、孤立を防ぎ、住み慣れた地域で健康に暮らそう</p>	<p>⑧ <u>いきいきサロン活動助成</u> 各自治公民館での交流活動への助成</p> <p>⑨ <u>こけない体操</u> 各自治公民館での介護予防（月1回/各館）</p>	<p><b>【世代間交流】</b> ・学生や親子、公民館未加入世帯など世代を問わず参加できるサロンにする</p> <p><b>【実施者の負担軽減】</b> ・こけない体操やその他の公民館活動と合同開催する ・各館持ち回りで実施し、妻ヶ丘地区内の交流を生む</p> <p><b>【福祉施設との協働】</b> ・福祉施設と協力し、会場借用や専門知識を活かした活動を実施し交流を図る</p> <p><b>【地域課題へのアプローチ】</b> ・地域課題に対する自治公民館の取り組みに助成する</p>

<p style="text-align: center;"><b>実現するための必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習内容を充実させるため、妻ヶ丘地区内の社会福祉施設、特技ある地域住民、南九州大学に協力を依頼する</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会との協働による予算を組む</li> <li>・赤い羽根共同募金助成金の活用を検討する</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妻ヶ丘地区内の社会福祉施設、南九州大学とのつながりを生かした講習内容を検討する</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南九州大学や社会福祉施設を活用する</li> </ul>	<p><b>②財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人サポーターの募集</li> <li>・協賛企業（スポンサー）の発掘</li> <li>・自主財源確保のためのツール開発</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活改善推進員と連携を図る（クッキング）</li> <li>・社会福祉法人の地域貢献の一環として協力を依頼する</li> <li>・保育、幼児教育を学ぶ大学生に協力を依頼する（にじ）</li> <li>・上長飯子育て支援センターとの連携（にじ）</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者から会費を募る</li> <li>・低予算での開催を検討</li> <li>・助成金を活用する（市社協、行政事業）</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親世代を地域に巻き込み、地域交流ができるよう仕掛ける</li> <li>・親子の交流や、子の成長につながる機会にする</li> <li>・親子、親、親同士を主軸においた企画の提案（子育てサロン）</li> <li>・ひきこもり当事者や家族など、課題を抱えた世帯の居場所づくりとして企画する</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館（たまり場エリアの活用）</li> <li>・地域の店舗を活用した参加しやすい場所づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協のファンを増やして財源確保</li> <li>・サロン等のイベント参加費</li> <li>・地区社協の宝くじ（抽選方式の協賛）</li> <li>・人材を活かした収益事業（演奏、手品）</li> <li>・物品販売</li> <li>・場所、物の貸し出し</li> <li>・有償サービスの導入</li> <li>・忌明け寄付の活用</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉施設と合同開催を検討する</li> <li>・壮年部とともに運営する</li> <li>・こけない体操といきいきサロンの共催を図るため、地域包括支援センターと連携する</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶代程度の会費を集める</li> <li>・まちづくり協議会からの助成金</li> <li>・地区社協からの助成金</li> <li>・会費を集めておしゃべりの場にする</li> <li>・公民館単位の活動で参加費を徴収している地区の情報収集（こけない体操等）</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの世代が参加しやすいよう日程を調整する</li> <li>・季節行事を通して社会福祉施設利用者と地域が交流できるよう企画する</li> <li>・伝統の継承など、世代間交流を図る</li> <li>・こけない体操実施日の一覧をもとに、いきいきサロンとの合同開催を企画する</li> <li>・地区事業、地区社協事業の周知の場として活用</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉施設を活用する</li> <li>・他の自治公民館でも参加できるような活動にする</li> </ul>	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p><b>住民の学びやコミュニケーションを大切にして、参加協力する住民意識を高めよう</b></p>	<p>⑩ <u>合同研修会</u> 妻ヶ丘地区の暮らしに関するテーマの研修会（年1回）</p> <p>⑪ <u>福祉総合研修会</u> 福祉をテーマにした研修および圏域内の福祉施設の活動紹介（年1回）</p>	<p>【活動の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画段階からいろいろな人に参画してもらい、対象を変えながら体験型の研修にする</li> </ul> <p>【福祉に関する情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に福祉に関する必要な情報を発信する</li> </ul>
<p><b>声をかけあい、お互いさまの関係をつくり、住み慣れた地域で安心して暮らし続けよう</b></p>	<p>⑫ <u>友愛ネット</u> 高齢者の見守り活動（月1回/上東、一万城東部）</p> <p>⑬ <u>小鷹おたすけ隊</u> 高齢者世帯を対象とした有償ボランティアおよび見守り活動（月1回/小鷹）</p>	<p>【各館への拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館ごとに組織化を図り、持続させていく</li> </ul> <p>【友愛ネットの周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長に協力をもらって周知する</li> </ul> <p>【サポーターを増やす】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターを増やすため、自治公民館全体で取り組み、近隣の自治公民館とも協力する</li> <li>・ボランティア活動の楽しみ、喜びを広める</li> </ul> <p>【事務局体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業から協賛金を得る</li> <li>・勉強会の実施、組織再編を行い、事務局体制を構築する</li> </ul>
<p><b>自主的なボランティア活動や福祉教育により、妻ヶ丘の未来の人材を育てよう</b></p>	<p>⑭ <u>妻ヶ丘中ボランティア</u> 地域活動への参加（随時）</p>	<p>【中学生が地域を学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会に地域行事の情報提供を行い、中学生が地域を学ぶ機会にする</li> <li>・既存の活動への参加協力</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>実現するための必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会と協働で企画する</li> <li>・社会福祉施設と協働で企画する</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会との協働による予算を組む</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの世代が参加しやすいよう開催日を設定する</li> <li>・地域福祉、社会福祉施設に関する情報の発信</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館</li> </ul>	<p><b>③事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局員の配置</li> <li>・相談窓口の多機能化（専門相談会、サロン実施）</li> <li>・週5日開設</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に興味のある地域住民にサポーターになってもらう</li> <li>・実施していない地区にもサポーターを呼びかける</li> <li>・自治公民館が主体となり活動する</li> <li>・地区社協は後方支援を行う</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の広告収入を活用する</li> <li>・寄付を募る</li> <li>・企業からの協賛金を募る（おたすけ隊）</li> <li>・公益事業基金を活用する（おたすけ隊）</li> <li>・利用者より徴収する活動費を見直す（おたすけ隊）</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館ごとの支え合い組織の後方支援（地区社協）</li> <li>・規約を見直し、実情に合った活動を展開する（友愛ネット）</li> <li>・内規を見直し、高齢者以外も支援できるよう整備する（おたすけ隊）</li> <li>・事業計画を見直し、事務局機能を強化する（おたすけ隊）</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治公民館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協にボランティアコーディネーターの配置</li> <li>・地区担当2人体制</li> <li>・ICTの活用（報告書類の簡略化、デジタル化）</li> <li>・いろいろな事業で企業とコラボ</li> </ul> <p><b>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用机を地区公民館内に配置する</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と情報共有し、地域イベントにボランティアとして参加してもらう</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の予算</li> </ul> <p><b>【事務局機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人と学生ボランティアをつなぐ存在になる</li> <li>・地域のイベント等の情報を中学校に伝える</li> <li>・地域と連携することによって福祉教育の機能を持たせる</li> </ul> <p><b>【拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妻ヶ丘中学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所の開設</li> <li>・空き家・空き教室を活用した居場所づくり</li> <li>・1地区に複数（2つ以上）の拠点化</li> <li>・小学校区でのミニサテライト</li> <li>・なんでも相談室を雑談室に</li> </ul>

地区の風景



都城運動公園前の歩道橋から見る風景

策定委員名簿（委員長／松尾 伊津子 副委員長／米澤 由美子）

No.	氏名	所属
1	松尾 伊津子	妻ヶ丘地区社会福祉協議会長 食生活改善推進協議会長
2	満行 優	妻ヶ丘地区社会福祉協議会副会長 竹町地区民生委員児童委員
3	音堅 律子	妻ヶ丘地区社会福祉協議会副会長 妻ヶ丘地区高齢者クラブ体育部長
4	米澤 由美子	妻ヶ丘地区社会福祉協議会事務局長 一万城東部自治公民館館長
5	水久保 茂一郎	東町自治公民館長
6	福島 勝郎	小鷹自治公民館長
7	中藺 欽一	菖蒲原自治公民館長
8	西園 康朗	若葉自治公民館長
9	轟木 敏子	妻ヶ丘地区民生委員児童委員協議会長 子育てサロン“にじ”代表
10	宮田 勝純	上東民生委員児童委員
11	南川 康子	若葉民生委員児童委員
12	安藤 裕子	中妻民生委員児童委員
13	前川 智子	生活支援コーディネーター 主任児童委員
14	盛満 和男	福祉協力員（東小校区）
15	森岡 英史	福祉協力員（東小校区）
16	淵上 澄雄	福祉協力員（上長飯小校区）
17	鳥越 イツ	福祉協力員（上長飯小校区）
18	中村 光彦	妻ヶ丘地区公民館長
19	飯干 裕二	妻ヶ丘中学校長
20	前田 美保	つながるための市民団体しるべ代表 弁済使民生委員児童委員
21	江田 かおり	上長飯認定こども園
22	中嶋 亮太	居宅介護支援事業所わかば
23	藤崎 大地	なのはな村
24	平田 典子	小規模多機能型居宅介護ヒストリア I
25	押川 祐一郎	妻ヶ丘・小松原地区地域包括支援センター